

山雲水月

発行責任者 龍源寺 住職 渡辺龍道



←子供禅の
集い参加者
募集中!

りよくいんぜん つど えんじょう 第44回群馬県緑蔭禅の集い圓成

去る6月10日(土)～11日(日)に掛けて、第44回緑蔭禅の集いが仁叟寺を会場にして行われました。同行事は、仁叟寺住職が以前会長を務めたこともあり、副住職も会員として参加をしている、曹洞宗若手僧侶の団体「群馬県曹洞宗青年会」(会長、粕川泰彦常黙庵御住職)が主催し毎年県内寺院で行っている行事です。群馬県曹洞宗青年会でも、一番伝統があり今年で44年目となる行事でもあります。

→上毛新聞(6/12付)
に掲載されました



平成18年 龍源寺年間行事予定

- 1/1～1/3 年頭祈祷
- 1/3～1/7 年始挨拶
- ※2/3 大節分会
- ※2/15 涅槃会
- ※3/12 大般若・大施食会
- ※3月中旬 筆供養法要
- 3/18～3/24 春季彼岸会
- ※4/8 降誕会(花祭り)
- 4/29 大施食会兼蚕影山例祭法要
- 7/13～7/16 県外檀信徒棚経
- ※7月下旬 第25回子供禅の集い
- 8/13～8/16 盂蘭盆会
- 9/20～9/26 秋季彼岸会
- ※10月中旬 参拝研修旅行
- ※12/8 成道会
- ※12/31 除夜会
- ※毎週土・日曜日 書道教室
- ※毎週水曜日 定期坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講稽古・華道教室
- ※は御本寺仁叟寺にて開催

今回仁叟寺が初めて緑蔭禅の集いの会場となり、一般参加者39名、会員参加者35名、関係者他合わせまして約80名ほどが参加し、盛会裏に圓成することができました。また、二日間に亘って大本山總持寺布教部長であり千葉県長安寺大山陽堂御住職に法話を賜り、参加者に今回のテーマである「和」の大切さを説いておりました。



↑開講式で挨拶をする仁叟寺住職
仁叟寺からは檀信徒及び坐禅会より3名の方が参加をしてくださいました。ほか、榊原茂氏、新井徳衛氏、高橋秀雄氏、龍源寺様、湯端鉦泉様、(株)放光様など仁叟寺檀信徒及び関係者より野菜や飲料などを沢山頂戴いたしました。また、寺誌写真班でもある神保佳玄氏には写真撮影をしていただきました。厚く御礼を申し上げます。



青年会禅の集い委員会より作製されたポスター↑

歴代住職墓地及び寺族墓地開眼法要報告

当寺恒例の4月29日（みどりの日）に行われます大施食会兼蚕影山例祭に併せまして、当寺歴代住職墓地及び寺族墓地の開眼法要をごんしゅう 厳修いたしました。多数の近隣の御寺院さまの読経が唱えられる中、檀信徒の皆様ははじめ縁に繋がる方々の焼香をそれぞれ賜りました。

昨年、11月3日（文化の日）に改修工事を始め、この開眼法要で一連の工事は終了となりました。当日は、遠く兵庫県より寺族墓地に眠っている駒家のご子孫さまも駆けつけ、めいぶく ご先祖さまの冥福を祈っておりました。また、開基門奈家の末裔である窪田氏、仁叟寺こまいぬ 梅花講の皆様、本堂前の狛犬一対を寄進して下さった仁叟寺総代長金子明氏、今回の一連の墓地改修工事を施工していただいた幸和石材さまをはじめ多くの方々の見守る中、同法要が執り行えた事、改めまして厚く御礼申し上げます。



↑ 歴代住職墓地開眼法要
↓ 寺族墓地開眼法要



龍源寺探索-15-



↑ 260年前の殿鐘

今回の探索では当寺の殿鐘を紹介いたします。当寺の殿鐘は、第ゆうほうちかん 八世祐峯智貫大和尚代の延享3年（1746）にえんきょう 鑄造されました。今ちゅうぞう から約260年前の古鐘です。

いもじ 鑄物師は江戸神田の江戸幕府御用達であった西村和泉守藤原政時ごようたし です。特にこの西村家は京都を中心に活躍をしていた鑄物師でしたにしむらいずみのかみふじわらのまさとき が、延宝年間（1673～1681）に江戸神田に居を移し、その腕が認められ幕府御用達の鑄物師となり、代々和泉守藤原政時を名乗ることが許されました。

口径は43.3センチ（1尺4寸3分）で殿鐘の最大口径であり、これほんしゅう 以上の大きさになると梵鐘すいてい となります。重量は推定62キロ。地藏菩薩が陽鑄されており、尊像の仕上がりもよく、260年前の殿鐘としては保存状態が大変良いとの評価を日本古鐘研究会の高橋久敬、石塚雄三両氏よりいただきました。

大東亜戦争の供出も免れ、当寺の殿鐘は今日も本堂前に安置され、古からの梵音を響かせております。

殿鐘調査を行いました

今回の龍源寺探索でも紹介をいたしました殿鐘ですが、その調査を日本古鐘研究会の高橋久敬、石塚雄三両氏によって行われました。

5月に仁叟寺の梵鐘（町指定重要文化財）を調査に来た際に、現在作成中の『仁叟寺誌』への寄稿と梵鐘及び半鐘の調査を依頼。また龍源寺の殿鐘も調査を依頼し、今回その調査報告書が当寺に届きました。調査にも龍源寺まで2回に亘って来寺され、詳細な調査を行っていただきました。調査の詳細は今号の龍源寺探索-15-をご覧ください。

→調査を行う高橋、石塚両氏



→サンコーグループ参禅研修会（上）
高経大佛教経営フォーラム参禅会（下）



仁叟寺通信-18-

毎年恒例の子供坐禅会も今年で25回目となりました。予定日程は7月24日（月）～25日（火）で、今回も多数の申し込みが仁叟寺に届いております。また毎週水曜日夜7時から、副住職が行っております定例坐禅会も今年で5年目となりました。檀信徒以外の方も熱心に参禅をしております。是非、檀信徒の皆様もご参加をしていただきたく思っております。

さて、参禅を研修に行うサンコーグループ（寺本欣一社長）、高崎経済大学佛教経営フォーラムはじめ多くの企業、団体、組織の坐禅研修会を仁叟寺では行なっております。参禅会のご希望する企業、団体、個人などおられましたら遠慮なく仁叟寺までお問い合わせください。

竹をお分けいたします

昨年秋に、大々的に龍源寺の竹林の間伐を、1週間以上掛けて行いました。その際に切った竹を希望者にお分けいたします。既に、豪雪地帯の新潟の御寺院さまや、ネットを通じ希望者を募ったところ、4件ほどの申し込みがあり、好評を得ております。

当寺の竹は孟宗竹で肉厚なそれです。大きさも均一に揃えており、また枝も切り落としてあります。希望者は当寺までお問い合わせください。



↑間伐をし、切り落とした竹

ばいかこう みりよく さんかしゃずいじほしゅうちゅう

梅花講の魅力 (参加者随時募集中)

『曹洞宗梅花流詠讚歌』の歴史は、本年で創立54年になります。当時作られた経緯は、大変な努力があったと聞いております。大本山永平寺監院を辞した丹羽仏庵老師が、曹洞宗宗務庁に創立を幾度も進言され、色々な方のお力でようやく昭和27年(1952)に御詠歌講が発足されたとのことです。『詠讚歌』は、『歌声に仏まします梅花流』といわれますが、梅花を唱える人々の精進が、この世界を春(平和で理想的な世界(仏国土))の花で咲かせることと受けとめて頂きたいと思っております。この梅花流詠讚歌は、梅花符に基づいた經典の曲譜を唱え、右手に鉦を左手に鈴を持ってお唱えする『仏行』です。このお唱えする中で、仏道を学び仏祖や諸菩薩に親しんで頂くという曹洞宗の布教活動の一つだと思っております。この詠讚歌は、

- ①正しい信仰にいきましょう。
- ②仲良い生活(暮らし)をいたしましょう。
- ③明るい世の中をつくりましょう。

といった三つのお誓いがあります。唱えることにより少しでもお誓いに近づき、また他に感動を与え仏法が伝わってくる手段となればありがたく思っております。

- 仁叟寺梅花講長 住職 渡辺啓司 指導 渡辺恵津子
- 資格 梅花流3級詠範
- 活動内容 隔週水曜日午後1時30分より、月2回の定例の稽古
曹洞宗宗務庁主催の全国大会参加(5月か6月)
群馬県曹洞宗宗務所主催の県大会参加(10月か11月)
仁叟寺大般若会兼施食会奉賛御詠歌(3月第2日曜日)
花祭り奉詠御詠歌(4月8日)
龍源寺施食会兼蚕影山例祭奉賛御詠歌(4月29日)
- 指導 大雲寺(高崎)仁科清信御住職 地蔵院(新潟)須戸秀圓御住職
海雲寺(安中)土屋裕之御住職 音昌寺(片品)坂西マサル様
- 講員(14名) 井上あやめ(吉井) 井上澄子(多胡) 市川由紀子(矢田)
今川美代子(吉井) 柿田珠江(神保) 柿田マサヨ(吉井川)
斉藤富美子(多胡) 志賀大(多胡) 酒井久子(吉井川)
田中みき江(多胡) 三木喜久代(黒熊) 森福江(中島)
関テル子(高崎) 柿田久枝(神保)
- 設立年月日 平成14年(2002)3月より

↑ 花祭り奉詠御詠歌



(文責 渡辺恵津子)

行雲流水 (編集後記)

梅雨が続いておりますが、季節はもう夏へと変わって参りました。さて、私事で恐縮ですが、今年12月より曹洞宗群馬県宗務所に梅花主事として常勤になることとなりました。

宗務所は、以前仁叟寺にもありました群馬県内の曹洞宗寺院を統括する役所であります。勤務は週3日ですが、龍源寺仁叟寺の寺務には多々影響が出るかと思われまます。ご理解ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

編集人 住職 渡辺龍道

→ 当寺に迷い込んだカブト虫 (昨年)

